

◇2019 年度実施の訪日教育旅行の実態とまとめ（中・高）＜抜粋＞◇

この調査は、2019（平成 31/令和元）年度に実施された中学校・高等学校の訪日教育旅行の受け入れに関するものである。

なお、調査は全国の国立・公立・私立等の中学校・高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	85	12,921	2,103	15,109
抽出校数	85	3,936	2,103	6,124
回答校数	23	1,467	622	2,112
回答率%	27.1%	37.3%	29.6%	34.5%

※回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

調査項目は次の通りである。

- (1) 来訪国・地域 (2) 来訪月 (3) 日本滞在日数
- (4) 来訪生徒数 (5) 来訪引率教員数 (6) 来訪校の宿泊市町村
- (7) 来訪校の見学・交流実施市町村 (8) 受け入れ対応内容 (9) 交流費用
- (10) 交流費用の支出元 (11) 学校が支出の場合の支出元 (12) 学校間交流の具体的内容
- (13) 学校間交流における通訳の手配 (14) 受け入れ要請がどこからあったか
- (15) 訪日教育旅行受け入れ実施に当たっての課題や問題点

当調査の対象とした「訪日教育旅行」の定義は、以下の通りである。

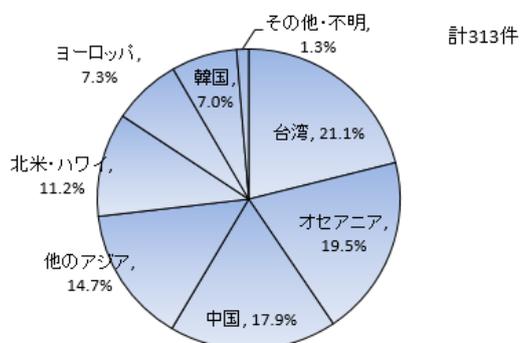
- ・主として、学校単位で引率者が引率し、訪日する団体の旅行（個人は除く）
- ・原則として、日本の学校との学校間交流を実施

そのため、引率者がいない3名以下の回答については対象外とした。

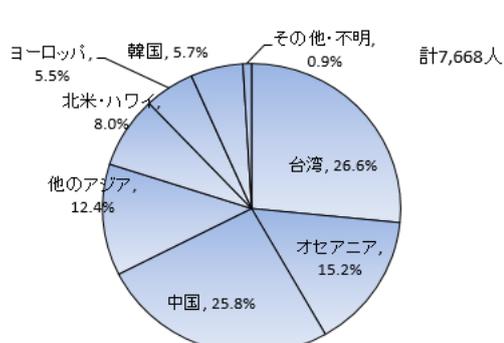
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については「教育旅行年報データブック 2020」をご覧ください。

1. 国・地域別 訪日教育旅行数

国・地域別 訪日教育旅行件数（構成比）



国・地域別 訪日教育旅行人数（構成比）



※実施されたと報告された総件数を分母とした構成比

※実施されたと報告された総人数を分母とした構成比

有効回答件数計 313 件（前年度 242 件）、人数計 7,668 人（前年度 5,558 人）と、年度末にコロナの影響を大きく受けた中で大きく前年を上回った。

構成比の推移では、件数が多い東アジアの国・地域の中では中国の増加（一昨年 10.2%→昨年 13.2%→本年 17.9%）が目立つ。中国では日本の文科省に当たる教育部から 2016 年に「研学旅行」（日本での修学旅行に当たるが、全員参加制ではない）推進の通達が発信されて以降、日本への教育旅行に一貫して増加の傾向が見られる。一方、元々多かった台湾は構成比では微増傾向。韓国は微妙な二国間関係を反映してか減少が見られ、台湾への訪問先変更の傾向があるとも聞く。

中国・韓国・台湾以外のアジアをまとめた「他のアジア」では、タイ（10 件）、マレーシア（8 件）、シンガポール（7 件）、フィリピン（5 件）など、経済成長著しいアセアン諸国が多いが、親日国としても知られるインドネシアが今年の 3 件から 7 件と増加しているのが注目される。アジア全般に言えるが、LCC 格安航空便の路線・便数の増加も増加の要因になっていると思われる。

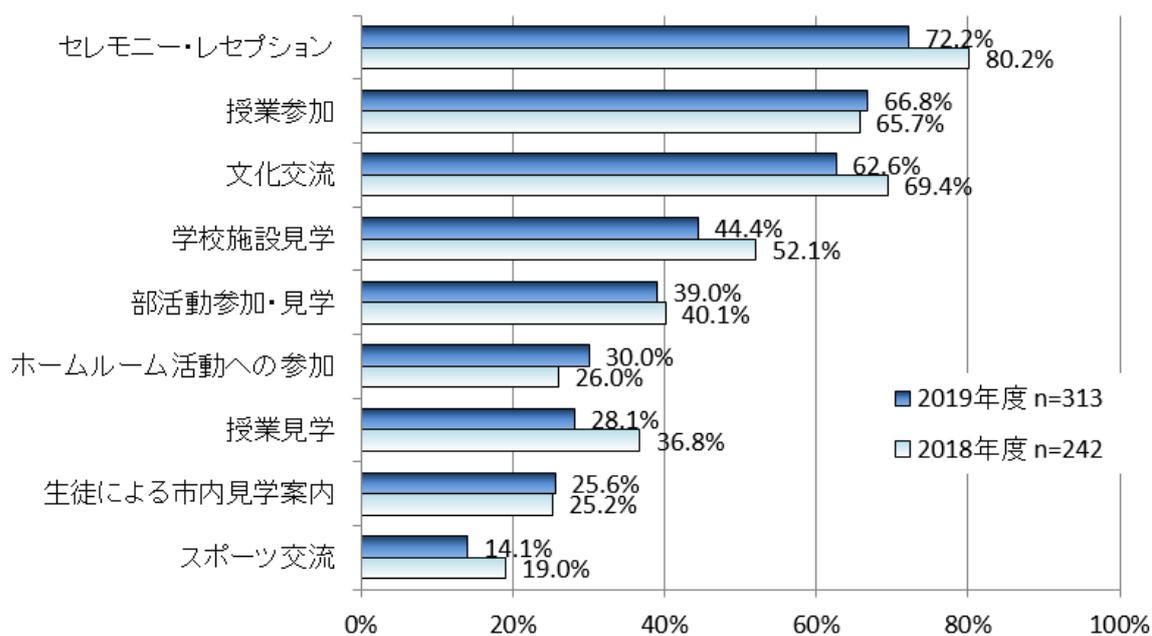
国・地域別 月別訪日教育旅行数

国・地域	来訪月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中国	件数	2		3	22		4	3	8	3	11			56
	人数	55		84	712		67	58	417	90	493			1,976
韓国	件数		1	3	6			3	1	1	6	1		22
	人数		21	63	135			44	11	33	115	14		436
台湾	件数	6	19	3	9	1		6	8	7	5	2		66
	人数	200	632	146	200	20		202	205	195	192	44		2,036
他のアジア	件数	4	4	3	3	3	1	5	11	5	2	5		46
	人数	81	196	30	63	42	9	69	282	76	40	66		954
オセアニア	件数	8		2	9		22	9	2	6	3			61
	人数	164		43	212		446	113	29	117	41			1,165
北米・ハワイ	件数	3	1	8	12		2	2	3	1	3			35
	人数	109	20	142	197		28	22	35	19	40			612
ヨーロッパ	件数	2	2		3	1	3	7	3		1	1		23
	人数	43	10		140	38	33	94	32		17	11		418
その他 不明	件数		1				2				1			4
	人数		21				33				17			71
件数計		25	28	22	64	5	34	35	36	23	32	9	0	313
人数計		652	900	508	1,659	100	616	602	1,011	530	955	135	0	7,668
件数構成比		8.0%	8.9%	7.0%	20.4%	1.6%	10.9%	11.2%	11.5%	7.3%	10.2%	2.9%	0.0%	100.0%
人数構成比		8.5%	11.7%	6.6%	21.6%	1.3%	8.0%	7.9%	13.2%	6.9%	12.5%	1.8%	0.0%	100.0%
前年度人数構成比		9.3%	10.0%	7.5%	17.3%	2.6%	7.3%	10.8%	9.1%	7.9%	9.7%	6.8%	1.6%	100.0%

学習指導要領に規定の「特別活動」の一つに位置づけられた「旅行・集団宿泊的行事」として実施される日本の修学旅行と異なり、訪日教育旅行は、学校内で日本に関心を持つ希望者を募集したり、日本語学習者（クラス）単位で来訪したりという形態が多い。そのため、各国・地域の学校の中・長期休みの時期や、国定の連続休日がある時期に行うことが多い。訪問国・地域毎に学年・学期のスケジュール等も異なるため、それが訪問月の違いに反映される。中国からは学年の終わりの時期である 7 月、台湾からは 4・5 月、10～12 月の来訪が多い。オセアニアでは 9・10 月が多い。

今回の集計では、コロナの影響が 2 月・3 月の数字にはっきり表れている。前年度の集計では、2 月・3 月計の件数構成比は 6.2%と、特に 3 月はさほど多い時期ではないが、国際間の往来停止状態は 2020 年度にも続いており（執筆は 2020 年 8 月）憂慮される。

2. 学校訪問時の交流内容（複数回答）



※ 訪問件数を分母とした比率を表記

交流内容（複数回答）では、「セレモニー・レセプション」、「授業参加」と「文化交流」の三つが訪問件数中6割以上のケースで実施されているのは例年通りで、学校交流の中心的な内容であると言える。